

「鉄鋼技術の進歩」刊行に際して

会長 湯川 正夫

日本鉄鋼協会創立 50 周年を迎えるに当たり、記念事業の一環として最近 10 年間に進歩発達したわが国鉄鋼技術の推移を、記念特集号「鉄鋼技術の進歩」と題し会誌「鉄と鋼」臨時増刊号として刊行することになりました。本会ではすでに 20 周年事業として、昭和 10 年「最近 20 年間の鉄鋼関係事業の発達」、40 周年事業として昭和 30 年「戦後 10 年間における本邦鉄鋼技術の進歩」をそれぞれ会誌「鉄と鋼」記念号として刊行いたしました。

すでにご承知のとおり、近年におけるわが国鉄鋼業の発展はめざましく粗鋼生産高は米、ソについて第 3 の製鉄国に位するにいたりました。戦争による荒廃の中に立たされたわが鉄鋼業が幾多の辛苦から起ち上がり、今日、基幹産業として旺盛な活動を続けている姿を、何人が想像したでしょうか。

戦争の痛手によつて生じたブランク、すなわち欧米諸国との間には技術および生産両面において深く、大きいギャップがありました。鉄鋼界は欧米各国とのギャップを取り除くために、能う限りの研鑽と努力を惜しみませんでした。欧米で研究開発された設備ならびに技術の導入とその消化、既存設備の改善、高性能設備による近代化、強力な合理化策の実施などによる生産性の向上、また朝鮮動乱、数次にわたる好況、所得倍增計画に伴う鉄鋼需要の増加などの経済的、社会的要因を背景に急速な発展を遂げました。

鉄鋼生産技術においても製鉄、製鋼、圧延の各設備と操業技術は欧米諸国の水準に達し、否、凌駕しているといつても過言ではないと信じます。最近においては、全自溶性焼結鉱による高炉操業、LD 転炉の多孔ノズル、廃ガスの未燃焼ガス回収方式の発明などわが国において研究、開発された技術が相次いで発表されるにいたり、技術導入の依存から脱皮する一つの現われとして誠に喜ばしいものであります。

これもわれわれ鉄鋼の生産ならびに研究にたずさわる者、換言すれば本会会員が主体となつて、先輩諸兄の築かれた偉業を継承し、たゆまぬ研鑽を重ねた結果得られた賜物であると存じ、会員諸兄とともに慶びを分かち合いたいと思います。

このようなわが国の鉄鋼生産技術の急速な発展は、世界各国の鉄鋼界が低迷していた時期であつただけに、世界各国は驚異の目を向け、あらゆる角度からわが国鉄鋼業の特質を調査、分析し、特に臨海鉄鋼業のもつ優位性ならびに研究、技術、業績を高く評価し、わが国鉄鋼業の実力を改めて瞠目したのであります。しかしながら、貿易の自由化に伴う国際競争力の問題、新しい製品開発のための種々の研究、アルミニウム、プラスチックその他の競合材料に対する問題など鉄鋼界で処理解決しなければならない問題が山積しております。これらを克服してはじめて、わが国鉄鋼業の真の実力が内外に評価されるのであります。

この時期に「鉄鋼技術の進歩」が刊行されますことは、これまであまりにも急テンポに発展した鉄鋼業に対して、いま一度足跡を顧りみる必要性と、将来への発展の可能性を洞察するうえに最良の資料となり、また会員諸兄とともに考え、さらに研鑽を重ね、一段の飛躍を図るための糧となると信じます。

最後に本特集号刊行に際し絶大なるご協力を賜わつた執筆者各位、ならびに周到な計画のもとに編集作業を遂行されました、本会編集委員会各位に対し深甚なる敬意と謝意を表します。